

3 自然と ともに くらし

総合的な学習の時間

15 陸の豊かさも
守ろう



授業の実際
15時間目 / 70時間

<導入>

すぎなみ環境ネットワークの方と
これまでの取り組みを振り返る。



ヤゴ救出作戦をした後
にヤゴ池を作ったよ。

環境ビンゴで色
やにおいにも気
付いたよ。

💡 自然を守り、良い環境を作っていくため
に私たちには何ができるか話し合いを通
して考えよう。



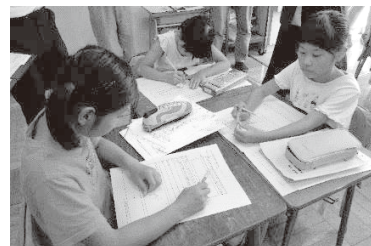
<展開>

これからどのようなことに取り組んでいきたいか考えよう。

どんな生き物がいいかな。



ミミズはよい土を作るからミミズの
すみかを作りたいな。



ハチを飼うのは難しいかな？

花をたくさん植えてハチが
蜜を採りに来るといいな。



自分の考えをもつ。

わたしはメダカのすみかを作る！

話し合いを通して仲間と
比較しながら考えを深める。

理由がはっきりしていていいね。



<終末>

💡 どのような取り組みをしたいと考えましたか？
💡 関わりたい生き物は何ですか？

- 土の中の生き物探しをしてたくさん見
付けたよ。元気に暮らせるようにすみ
かを作りたい。
- 花をたくさん植えてチョウがもっと来る
ようにしたい。
- 環境ビンゴのときにヤモリを見付けた
よ。どんな暮らしをしているか調べて
すみかを作りたい。
- ヤゴ以外の水の中の生き物はどん
な暮らしをしているのかな。

- ダンゴムシに関わりたい。そのために
落ち葉をたくさん集めてすみかを作り
たい。
- チョウをもっとたくさん増やしたい。
- カエルがもっと増えるようにするには
どうしたらいいかな。

外部人材・地域資源等を活用して単元を作るにあたって

＜昨年度の実践を知る＞



- すぎなみ環境ネットワークのスタッフの方の参加により、児童一人一人に寄り添う授業づくりをした。また継続的な取り組みにより過去の経験や実践の蓄積の上にカリキュラムづくりを行った。
- 様々な外部人材との関わりのなかで、環境や生物に対する専門的な知識による支援により、子供たちの興味関心や疑問に答える単元づくりをした。

＜今年度の計画を立てる＞

課題

- ①生き物との関わりをより身近に、継続的に、学びを深めたい。
- ②昆虫以外の生き物との関わりを通して活動に広がりをもたせたい。



単元計画・ESD カレンダーの見直しからスタート！

- ①昨年度までの実践を踏まえ、今年度の活動の方向性をすぎなみ環境ネットワークと確認した。
 - 「生き物と人との関わりについて、より実感をもたせながら、生命の多様性と共通性、相互性についての価値観を広げたい」という教師の願いを伝えた。
 - 総合的な学習の時間の単元に「土の中の生き物」と「身近な野鳥」についての単元を加え活動に広がりをもたせた。
 - 学校とすぎなみ環境ネットワーク双方の特性を情報交換した。その中で、専門性に関して、互いの得意・不得意の改善について話し合った。その上で、他の専門家との活動の可能性について率直に話し合った。
- ②他団体、専門家との連携
 - 身近な地域のなかで生き物と人とのつながりを見いだすため、社会科と関連して JA や農業公園の方に協力していただき、「土づくりと生き物」についての話を聞いた。
 - 外部の専門家と「ミミズを使った循環」の学習や「土の中の生き物の命の授業」を計画し、児童の価値観の広がりを目指した。
- ③学習活動と関連する他教科の単元を再構成した。

単元づくりを通して

すぎなみ環境ネットワークとの実践の積み重ねにより、より見通しをもって活動を行うことができた。活動の形骸化を防ぐため、話し合いの中で新しい取り組みを行うことで、児童のみならず、教師も新たな学びを得ることができた。専門的な知見を得ることで児童の興味関心に即したより深い学びが実現し、価値観を広げることができた。より開かれた教育課程を実現するため、年間計画づくりから外部人材に積極的に関わっていただくことが今後更に求められる。